

## 金日成主席の世紀的業績

チュチェ思想国際研究所理事長  
ラモン・ヒメネス・ロペス

金日成主席が積み上げたもっとも大きな理論的・実践的業績は、世界的範囲において自主的で平和的な新しい時代を切り開くことに役立つ、チュチェ思想を創始し発展させたことです。

金正日総書記は、金日成主席が創始した革命思想を金日成主義として定式化しました。

金正日総書記は1982年3月31日、金日成主席生誕70周年記念全国チュチェ思想討論会に寄せた論文である不朽の古典的著作「チュチェ思想について」で次のように述べています。

「チュチェ思想は金日成同志の深奥かつ多方面にわたる思想・理論活動の貴い結実であり、チュチェ思想の創始はその革命業績のうちでもっとも輝かしい地位を占めています」

「金日成同志によって開かれ導かれてきた朝鮮革命の歴史は、偉大なチュチェ思想がりっぱに具現され全面的な勝利をおさめてきた栄光の歴史であります」

「チュチェ思想で武装しその旗をかかげて進むとき、いかなる難関と試練をも克服し革命と建設で勝利を達成することができるというのは、半世紀を越える革命闘争の歴史をつうじて朝鮮人民の胸に深く刻まれた信念です」

金日成主席は、早くから教条主義とセクト主義、日和見主義と事大主義に反対して闘いました。全世界の勤労者の党建設において現れていたこれらの毒素に反対して金日成主席は、自力更生に依拠し、実情に即しておこなう方法、言い換えれば人民大衆の尽きない力に依拠し、各国の特性と歴史、文化伝統と祖国愛を考慮して当該諸国の現実に合うようにする方法を立派に具現しました。

これは朝鮮民主主義人民共和国をして政治における自主、経済における自立、国防における自衛を実現した社会主義国家に強化させました。

金日成主席は、人民大衆の自主的な思想意識が革命運動において決定的な役割を果たすと見なし、いつも思想活動に第一義的な関心を払って国内外の保守主義反動勢力の金権機構をおさえつけました。

これは、帝国主義の支配と寡頭政治から人民を解放するために闘争する世界

のすべての革命的で進歩的な力量にとって、特出した遺産となります。

朝鮮人民のこの自主意識の発展は、反帝闘争のもっとも厳しかった時期と社会主義陣営の崩壊が招かれた時に、朝鮮民主主義人民共和国を社会主義の保障と発展の不敗の世界的砦として立ち上がらせました。

朝鮮民主主義人民共和国は、世界の自主と平和の新しい時代を開くための人類の前途を照らす灯台となりました。

新しい時代を開く上で、金日成主席の業績は第一義的な地位にあります。なぜなら金日成主席は、いつも各国が自国の運命を自主的に決定し、諸国間の関係が他国の内部問題に干渉しないことに基づき、諸国間に生じうる不和を戦争ではなく平和的な方法で解決するように闘争し導いたからです。

金日成主席は、世界の自主と平和のために、すべての国が人民大衆に依拠して自国の実情に即して闘争しなければならないと教えています。

また、金日成主席は、社会主義革命と建設の勝利を成し遂げるために思想革命、文化革命、技術革命を同時に推し進めました。これらの革命は現在、社会生活の各分野で、完全な自主性を実現するために闘争するすべての人民にとって根本的な問題となります。言い換えれば、人民大衆に依拠して自国の特性に応じてこの三大革命を同時に発展させなければ、どの国も完全に自主的な国となりえないということです。

金日成主席が積み上げた不滅の業績は、また三年間の戦争を通じて朝鮮に社会主義と相反する体制を押し付けようとしたアメリカ帝国主義の企図を粉砕したことです。世界史を振りかえって見れば、これは疑いなくもっとも強大であった帝国主義強国の侵略に立ち向かって自主性を守り抜いた、人民の最も英雄的で力強い闘争となります。

朝鮮戦争が勃発した時、アメリカは原爆ともっとも発達した兵器で装備した軍隊をもっていました。三年間の戦争後、朝鮮民主主義人民共和国と停戦協定を締結しなければなりません。アメリカ合衆国を代表して調印式に出た米軍の将官マーク・クラークは自身の回想録で「わたしはアメリカの歴史上初めて勝利のない停戦協定にサインをする不名誉な任務を果たすようになった」と打ち明けました。

金日成主席の指導のもとに朝鮮人民が収めたこの勝利は、歴史の浅い国の人民でも革命意識で武装し、偉大な領袖に指導されてこそ、世界の支配者、無敵必勝を自称する者を打ち破り、勝利を成し遂げることができるということを、平和を愛する世界の進歩的人民の記憶と心に刻まれるようにしました。

朝鮮人民のこの勝利は、金日成主席が明らかにした、今一つの真理を誇示し

ました。革命と建設を推し進めるには領袖、党、大衆の一心団結が必要であり、人民大衆を結集して政治的に教育すれば、軍事的面でいかに強いと自称する敵をも打ち破ることができるということです。

日本帝国主義に反対する解放戦争において、もっとも重要な戦略戦術的活動の一つは、1938年末から1939年の初めまでおこなわれた苦難の行軍でした。

この時期に、朝鮮人民が代をついで受け継いでいる抗日遊撃隊員の不屈の革命精神と熱烈な祖国愛が発揮されました。

金日成主席は回顧録で次のように述べています。

「苦難の行軍の内容を一言で要約すれば、厳酷な自然とのたたかい、ひどい食糧難と疲労とのたたかい、恐ろしい病魔とのたたかい、奸悪な敵とのたたかいが一つにからみあったものであったといえます。これにいま一つの深刻なたたかいがともないました。それは苦難にうちかつための自分自身とのたたかいです。初歩的には生き残るためのたたかい、ひいては敵にうちかつためのたたかいが、この苦難の行軍の基本内容でした。じつに苦難の行軍は最初から最後まできびしい試練と難関の連続でした」

不屈の革命精神と熱烈な祖国愛を身につけた朝鮮人民は、金日成主席の指導のもとに祖国解放を成し遂げました。

このように、チュチェ思想の創始者である金日成主席は、人民大衆を賢明に導いて米日帝国主義との二度の革命戦争と社会主義建設において偉大な勝利を勝ち取りました。